

作成日 2023年1月20日

改訂日 2023年1月20日

安全データシート (SDS)

A-97155-00241JA/01

1. 化学品及び会社情報

化学品等の名称 Omega99
製品コード A98L-0040-0111#P150
供給者の会社名 ファナック株式会社
住所 山梨県南都留郡忍野村忍草3580
電話番号 0120-240-613
ファックス番号 0120-240-673
お問い合わせ先 <https://www.fanuc.co.jp/ja/contact/form/index.html>
推奨用途及び使用上の制限 焼付防止剤 ロボットの説明書に記載された用途以外では使用しないこと
輸入元 会社名： 株式会社ループエース東京
住所： 東京都文京区本郷3-13-3 ミトビル2F
電話番号： 03-5802-5201
FAX番号： 03-5802-5200
緊急電話番号 03-5802-5201

2. 危険有害性の要約

GHS分類

健康に対する有害性	急性毒性（経口）	区分に該当しない
	急性毒性（経皮）	区分に該当しない
	特定標的臓器毒性（単回ばく露）	区分に該当しない3（気道性刺激）
	特定標的臓器毒性（反復ばく露）	区分1（肝臓）
	誤えん有害性	区分に該当しない

GHSラベル要素

絵表示（ピクトグラム）



注意喚起語

危険有害性情報

注意書き

安全対策

応急措置

保管

廃棄

危険

長期にわたる、又は反復暴露による臓器（肝臓）の障害
呼吸器への刺激のおそれ

保護手袋・保護衣・保護眼鏡・保護面を着用すること

眼に入れないこと。飲み込まないこと

汚染された作業衣は作業場から出さないこと

粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと

取扱い後はよく手を洗うこと

この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと

皮膚に付着した場合：多量の水と石鹸で洗うこと

眼に入った場合：多量の水で洗眼し、直ちに医師に連絡すること

ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師の診断、手当を受けること

汚染された衣類を脱ぐこと

環境への放出を避けること

飲み込んだ場合：口をすすぐこと。無理に吐かせないこと

直ちに医師に連絡すること

漏出物を回収すること

直射日光を避け、涼しく換気の良い場所に保管すること

一度栓を開けた容器は必ず密栓しておくこと

施錠して保管すること

内容物/容器を国際/国/都道府県/市町村の規則に従って廃棄すること

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別 混合物
成分：
： 基油（30～60wt%）
： 増稠剤（10～30wt%）

化学式	: 添加剤 (1~5wt%)
CAS.NO	: グラファイト (10~30wt%)
官報公示整理番号 (化審法、安衛法)	: 銅 (5~10wt%)
危険有害成分	: 特定出来ない
化学物質管理促進法	: 企業秘密により非公表
労働安全衛生法	: 企業秘密により非公表
	: 非該当
	: 鉱油 (第57条 表示対象物)
	: 鉱油 (第57条の2 通知対象物) (30~60wt%)
	: 銅 (第57条 表示対象物)
	: 銅 (第57条の2 通知対象物) (5~10wt%)
4. 応急措置	
吸入した場合	: 新鮮な空気のある場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。
皮膚に付着した場合	: 体を毛布等で覆い、保温して安静を保ち、直ちに医師の手当てを受ける。
	: 直ちに汚染された衣服を脱ぎ、皮膚を大量の水と石鹸水で洗う。
眼に入った場合	: 汚染された衣服を再使用する場合には洗濯をする。
	: 清浄な水で数分間注意深く洗う。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外す。
	: その後も洗浄を続け、最低15分間洗浄した後、医師の手当てを受ける。
飲み込んだ場合	: 無理に吐かせないで、医師の手当てを受ける。
	: 口の中が汚染されている場合は、水で十分洗う。
急性症状及び遅発性症状の 最も重要な徴候症状	: 飲み込むと下痢、嘔吐する可能性がある。
	: 眼に入ると炎症を起こす可能性がある。
	: ミストを吸入すると気分が悪くなることもある。
応急措置をする者の保護に 必要な注意事項	: 現在のところ有用な情報なし。
医師に対する特別な注意事項	: 情報なし。
5. 火災時の措置	
適切な消火剤	: 霧状の強化液、粉末、炭酸ガス、泡が有効である。
	: 初期の火災には、粉末、炭酸ガス消火剤を用いる。
	: 大規模火災の際には、泡消火剤を用いて空気を遮断することが有効である。
使ってはならない消火剤	: 棒状放水は火災を拡大し危険な場合がある。
火災時の特有の危険有害性 特有の消火方法	: 現在のところ有用な情報なし。
	: 火元への燃焼源を絶つ。
	: 周囲の設備等に散水して冷却する。
	: 火災発生場所の周辺に関係者以外の立ち入りを禁止する。
消火活動を行う者の特別な保護具 及び予防措置	: 消火作業の際は、風上から行い必ず保護具を着用し、皮膚への接触が想定される場合は、 : 不透性の保護具及び手袋を着用する。
6. 漏出時の措置	
人体に対する注意事項、保護具 及び緊急時措置	: 作業の際には、保護具を着用する。
環境に対する注意事項	: 下水道・河川等に流出し、二次災害・環境汚染を起こさないよう注意する。
	: 海上の場合、展張船によるオイルフェンスの展張は危険防止のため蒸気の及ばない範囲で行う。
	: 止むを得ず危険範囲に近づく場合は蒸気の拡散状況を把握し(風向、風速、ガス濃度等)安全を確認する。
封じ込め及び浄化の方法及び機材	: 危険地域より人を退避させる。危険地域の周辺には、ロープを張り、人の立ち入りを禁止する。
	: 少量の場合は、ヘラ、スコップ等で除くか、土砂、ウエス等に吸着させ回収し、ウエス等で拭き取る。
	: 大量の場合は、漏洩した場所の周辺にはロープを張るなどして人の立ち入りを禁止する。
	: 漏洩したグリースは土砂等でその流れを止め、安全な場所に導いた後、出来るだけ空容器に回収する。
二次災害の防止策	: 漏洩時は事故の未然防止及び拡大防止を図る目的で、速やかに関係機関に通報する。
	: 付近の着火源となるものを速やかに除くとともに消火剤を準備する。
7. 取扱い及び保管上の注意	
取扱い	技術的対策
	: 火花、炎、高温体等との接触を避けるとともに、みだりに蒸気を : 発散させないこと。
	: 皮膚に触れたり、眼に入る可能性のある場合は保護具を着用する。
	: 静電気対策を行い、作業衣、靴等も導電性の物を用いる。
	: 危険物が残存している機械設備などを修理、又は加工する場合は、 : 安全な場所において危険物を完全に除去してから行う。
	: 容器から取り出す時はポンプなどを使用すること、細管を用いて

		<ul style="list-style-type: none"> : 口で吸い上げてはならない。飲まない。 : ミストが発生する場合は、呼吸器具等を使用してミストを吸入しない。 : 容器は必ず密閉する。
	局所排気・全体排気	<ul style="list-style-type: none"> : 室内で取扱いを行う場合は、十分な換気を行う。
	注意事項	<ul style="list-style-type: none"> : 換気装置をつける場合は、防爆タイプを用いる。 : 製品から発生した蒸気は空気より重いので蒸留しやすい。 : そのため換気及び火気などへの注意が必要である。
	安全取扱い注意事項	<ul style="list-style-type: none"> : ハロゲン類、強酸類、アルカリ類、酸化性物質との接触並びに : 同一場所での保管を避ける。
保管	安全な保管条件	<ul style="list-style-type: none"> : 容器を開ける時は、手を切る恐れがあるので、保護手袋を着用する。 : 直射日光を避け、涼しく換気の良い場所に保管すること。 : 熱、スパーク、火炎並びに静電気蓄積を避ける。 : 保管場所で使用する電気器具は防爆構造とし、器具類は接地する。 : ゴミ、水分などの混入防止のため使用後は密栓して保管する。 : 保管場所に施錠して保管することが望ましい。
	安全な容器包装材料	<ul style="list-style-type: none"> : 容器に圧力をかけない。圧力をかけると破裂することがある。 : 容器は溶接、加工、穴あけ、または切断を行うと、爆発を伴って : 残留物が飛散することがあるので注意する。
8. ばく露防止及び保護措置		
設備対策		<ul style="list-style-type: none"> : ミストが発生する場合は発生源の密閉化、又は排気装置を設ける。 : 取扱い場所の近くに、眼の洗浄及び身体洗浄のための設備を設置する。
管理濃度		: 規定なし
許容濃度		: 時間荷重平均
		: グラファイト TWA 4mg/m ³ (吸入性画分) (EH40)
		: グラファイト TWA 10mg/m ³ (吸引性画分) (EH40)
		: 銅 TWA 0.2mg/m ³ (EH40)
保護具	呼吸用保護具	: 通常必要でないが、必要に応じて防毒マスク(有機ガス用)を着用する。
	手の保護具	: 長期又は繰り返し接触する場合は耐油性のものを着用する。
	眼、顔面の保護具	: 飛沫が飛ぶ場合には普通型眼鏡を着用する。
	皮膚及び身体の保護具	: 長期間にわたり取り扱う場合、又は触れる場合には耐油性の
		: 長袖作業着等を着用する。
	適切な衛生対策	: 汚れた衣服は脱ぎ、完全に洗浄してから再使用する。
9. 物理的及び化学的性質		
物理的状態		: 半固体
形状		: 半固体
色		: 銀色
臭い		: 特異臭なし
融点・凝固点		: 無し
沸点又は初留点及び沸点範囲		: 初留点-終点 データなし
可燃性		: データなし
爆発下限界及び爆発上限界		: データなし
／可燃限界		
引火点		: 213℃
自然発火点		: データなし
分解温度		: データなし
pH		: データなし
動粘性率		: データなし
溶解度		: 不溶性
n-オクタノール／水分配係数(log値)		: データなし
蒸気圧		: データなし
密度		: データなし
蒸気密度		: データなし
粒子特性		: データなし
その他データ		: データなし
10. 安定性及び反応性		
化学的安定性		: 常温で暗所に貯蔵・保管された場合、安定である。
危険有害反応可能性		: 強酸化剤との接触を避ける。
避けるべき条件		: 混触危険物質との接触。
混触危険物質		: ハロゲン類、強酸類、アルカリ類、酸化性物質と接触しないよう注意する。
危険有害な分解生成物		: 燃焼の際は、一酸化炭素等が生成される可能性がある。
11. 有害性情報		

急性毒性（経口）	：	区分に該当しない
急性毒性（経皮）	：	区分に該当しない
急性毒性（吸入：気体）	：	区分に該当しない
急性毒性（吸入：蒸気）	：	区分に該当しない
急性毒性（吸入：粉じん、ミスト）	：	区分に該当しない
皮膚腐食性／刺激性	：	長期間又は繰り返し接触した場合には、皮膚脱脂による皮膚炎を起こす可能性があるので注意すること。 ： 分類できない
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	：	分類できない
呼吸器感受性	：	分類できない
皮膚感受性	：	区分に該当しない
生殖細胞変異原性	：	分類できない
発がん性	：	分類できない
生殖毒性	：	分類できない
生殖毒性・授乳影響	：	分類できない
特定標的臓器毒性（単回ばく露）	：	区分3 気道性刺激 呼吸器への刺激のおそれ
特定標的臓器毒性（反復ばく露）	：	区分1 臓器（肝臓）の障害
誤えん有害性	：	区分に該当しない
1 2. 環境影響情報		
生態毒性	水生環境有害性（短期/急性）魚類	： 区分に該当しない
	水生環境有害性（長期/慢性）魚類	： 区分に該当しない
残留性・分解性		： 生分解試験結果は31%（28日間）であることから、本質的 ： 生分解性を有するが、易生分解性ではないと判断する。
生態蓄積性		： 有用な情報はありません。
土壌中の移動性		： 有用な情報はありません。
オゾン層への有害性		： 分類できない
1 3. 廃棄上の注意		
残余廃棄物		： 国や都道府県・市町村の規則に従って廃棄して下さい。 ： 事業者は産業廃棄物を自ら処理するか、または都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物処理業者、 ： もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合はそこに委託して処理する。 ： 投棄禁止。 ： 埋立処分を行う場合には、あらかじめ焼却設備を用いて焼却し、その燃えがらについては「廃棄物の ： 処理及び清掃に関する法律施行令」に定められた基準以下であることを確認しなければならない。 ： 焼却する場合は、安全な場所で、かつ、燃焼又は爆発によって他に危害又は損害を及ぼす恐れのない方法 ： で行うとともに、見張り人をつける。
汚染容器及び包装		： 空容器を廃棄する場合、内容物を完全に除去した後に処分すること。
1 4. 輸送上の注意		
国際規制	国連分類・品名（国連輸送名）	： 非該当
	国連番号	： 非該当
国内規制	海上規制情報	： 船舶安全法 非危険物
	航空規制情報	： 航空法 非危険物
	陸上規制情報	： 陸上運送 消防法 非危険物
輸送の特定の安全対策および条件		： 容器が著しく摩擦または動揺を起こさないよう運搬する。
1 5. 適用法令		
労働安全衛生法		： 鉱油（第57条 表示対象物） ： 鉱油（第57条の2 通知対象物）（30～60wt%） ： 銅（第57条 表示対象物） ： 銅（第57条の2 通知対象物）（5～10wt%）
化学物質排出把握管理促進法（PRTR法）		： 第一種・第二種指定化学物質リストに掲げてある物質は含まれておりません。
水質汚濁防止法		： 油分排出規制
下水道法		： 鉱油類排出規制
海洋汚染防止法		： 油分排出規制
廃棄物の処理及び清掃に関する法律		： 産業廃棄物規制
1 6. その他の情報		
参考文献等		： EH40/2005, Workplace exposure limits 2005, with amendments. ： The List of Wastes (England) (Amendment) Regulations 2005. ： (SI 2005 No. 895).

- : 日本規格協会（JIS）JIS Z 7253：2019「GHSに基づく化学品の危険有害性
- : 情報の伝達方法-ラベル、作業場内の表示および安全データシート（SDS）」
- : 安全衛生情報センター「GHS対応モデルラベル・モデルMSDS情報」
- : 独立行政法人 製品評価技術基盤機構（nite）「GHS関連情報」
- : 輸入元のSDS

安全データ・シートの技術情報と記載内容は信頼できるものですが、この資料はあらゆる種類の保証を表記したものではありません。
当製品の御使用によって起こる直接的、あるいは結果として生じたいかなる損失、損害についても責任は負いかねます。

本記載内容は、現時点で入手できる資料、情報データに基づいて作成しており、新しい知見によって改訂される事があります。また、注意事項は通常の見取り図を対
象としたものであって、特殊な取扱いの場合には十分な安全対策を実施の上でご利用ください。